県立図書館だより

平成２９年６月　　　青森県立図書館報　第２８号

「葛西善蔵生誕 130 年特別展」開催

青森県近代文学館では平成 29 年７月８日(土)から９月 18 日(月・祝)まで、企画展示室において「葛西善蔵生誕 130 年特別展」を開催します。

葛西善蔵は明治 20(1887)年、弘前松森町(現弘前市)に生まれ、家族とともに北海道や青森町(現青森市)、五所川原村(現五所川原市)を転々とした後、碇ヶ関村(現平川市)で育ちました。

青年期には上京と帰郷を繰り返し、大正元(1912)年に同人雑誌「奇蹟」に処女作「哀しき父」を発表。大正８年には第一創作集『子をつれて』を刊行しました。

貧困と病の中で身を削るようにして作品を書き、私小説・心境小説の第一人者として注目され、昭和３(1928)年に 41 歳で亡くなりました。

生誕 130 年という節目に当たり、時代を超えて熱烈な愛読者を獲得し続ける葛西善蔵の文学の奥深さに迫ります。

〜〜〜

目　　　　次

「葛西善蔵生誕 130 年特別展」開催……………………………………１～２
学校図書館シンポジウム開催のお知らせ………………………………………２
こんなレファレンスがありました……………………………………………３～４
こどものひろば………………………………………………………………………５
ご存じですか？この資料……………………………………………………………６
ようこそ文学館へ！…………………………………………………………………７
平成 29 年度６月から３月のイベントのおしらせ　……………………………８
※カウンターからひとことは休載させていただきます。

葛西善蔵生誕 130 年特別展関連イベント

いずれも**要申し込み**、会場は青森県総合社会教育センター大研修室です。詳細は、**青森県近代文学館**(℡017-739-2575)**まで**お問い合わせください。

◆文学講座１　―善蔵忌記念・朗読と講演―
７月 23 日(日)13:30～15:40
朗読：**川口浩一**（フリーアナウンサー）
講演：**鎌田慧**（作家）

◆文学講座２　―映像と講演―
８月 20 日(日) 10:30～11:45
映像：文学ビデオ「一字一拝　葛西善蔵の生涯」
講演：**伊藤博**(早稲田大学／法政大学非常勤講師)

『椎の若葉に光あれ　葛西善蔵の生涯』の著者、鎌田慧氏がいらっしゃいます！

予告

学校図書館シンポジウムを開催します

と　き：平成２９年１０月２７日(金)
ところ：青森県総合社会教育センター大研修室(県立図書館となり)

●主催　青森県教育委員会(予定)
●対象　学校関係者、教育行政関係者、公共図書館関係者、一般県民　等
●内容(予定)

1	13:00～13:10	開会行事	
2	13:10～13:50	発　表　１	「本県の学校図書館の現状を知る」 青森県立図書館
3	13:50～14:20	発　表　２	「学校図書館施策の推進」 文部科学省
4	14:20～14:30	休　　憩	
5	14:30～15:00	発表 3-①	「本県のリーダー的動きを知る①」 八戸市教育委員会
6	15:00～15:30	発表 3-②	「本県のリーダー的動きを知る②」 五所川原市立図書館
7	15:30～16:20	パネルトーク	「あおもりの学校図書館に命をふきこむために」

※内容等変更になる可能性があります。

●受付　９月中旬ごろから受付を開始します。
「県立図書館だより」平成 29 年 10 月号でも詳しくお知らせします。
●問合せ　青森県立図書館　企画支援課　電話 017-739-1456

～　こんなレファレンスがありました　～

【第２５回】

故郷（ふるさと）の話題読み語り
「三上“考える”と“考える場所”を、考える」

「文章を練る」という言葉があります。字句を十分に推敲したり、熟考して修正・改良を加えたりする際に使われる言葉ですが、これは文筆業の方に限った話ではありません。日常の中で、文章を練らなくてはならない場合は多々あります。式典などのスピーチの原稿を考えたり、年賀状やお手紙の挨拶文に悩んだり…。特に、この春、新しく仕事に就かれ、日々の生活の中で慣れない書類と格闘し、文章を「練る」ということの難しさを痛感している方も多いのではないでしょうか。

さて、今回のご質問は、この文章を「練る」場所についてのご質問です。

【質　問】

文章を練るのに最もよく考えがまとまる場所を「三上」というそうですが、それはどこで、誰の言葉ですか。

「三上」は、「さんじょう」と読みます。それは、**「馬上」「枕（ちん）上」「厠（し）上」**のことです。

宋の時代、「欧陽修（おうようしゅう）」(1007-1072)が、『帰田録』で書いています。

現代社会に生きる私たち。「馬」を「車」に置き換えてみると、複雑な考え事をしながら運転していて事故にでもあっては大変です。また、枕に頭を載せれば、すぐに寝てしまうほど、時間に追われ、疲れている毎日。とても文章など練られるものではありません。

では、**「厠（トイレ）」**はどうでしょう。

この、トイレについてのご質問もいただいています。

『晩笑堂竹荘畫傳』(1743)より

「欧陽修」（パブリックドメイン）

「余 平生所作文章 多在三上 乃馬上 枕上 厠上也。」（『帰田録』）

【質　問】

昔、青森の温泉に、自然の水が流れるトイレ（水洗トイレ？）があったと聞いたことがあるのですが…。どこにあったのでしょう？また、どのようなトイレだったのか、紹介されている本はありますか。

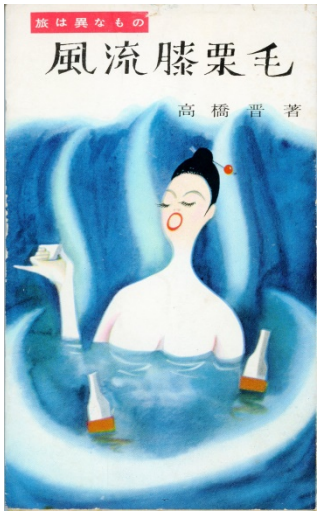
「厠」という言葉は、「川屋」からきています。川の上にトイレをつくり、排泄物を流し去る、つまり、水洗式トイレ、ということでしょうか。歴史は古く、『古事記』の神武天皇の条に、美しき娘、勢夜陀多良比売（せやだたらひめ）が、水の流れる溝に用を足す場面がでてきます。

『厠史話』(李家正文/著　六興出版社　1949)によると、当時の事ですが、まだ日本の至る所で見られるとして、青森県の川屋も以下のように紹介されています。

「いろいろな古俗の島である東北地方には、殊に川流しの便所が多い。たとへば、葛温泉(原文ママ　※蔦の誤植です)や、八甲田山の酸か湯温泉、また蒸の湯などのそれであり、修験者の道場と数へられる出羽三山にもみられる」

蔦、八甲田が書かれていますが、多くの人たちが体験し、文章として残され、有名なのは、蔦温泉です。

「あの風光明媚な十和田湖の近くの蔦温泉に泊まったことがあるが、その厠は建物の中で最も雅致のある部屋に見えた。下を流れる小川が天然の水洗の役目を果たしているところなど、何とも言えない奥床しさを感じた。」(『ハバカリ先生』文芸春秋新社　1961)と書いているのは、戦時中、英国海軍士官として従軍、香港陥落時に日本の捕虜となり、その時の収容所生活を描いた著書『おかわいそうに　東京捕虜収容所の英兵記録』(文芸春秋新社　1956)がベストセラーとなった、ルイス・ブッシュ氏。氏は、昭和９(1934)年春から昭和12(1937)年２月まで、旧制弘前高等学校に英語教師として務められています。その際に、蔦温泉に足を運ばれたのでしょうか。



また、全国各地の温泉を巡り、そのエピソードをまとめた『風流膝栗毛　旅は異なもの』(高橋晋/著　あまとりあ社　1956)でも、「におい旅」の項の最初に、蔦温泉が出てきます。「蔦温泉で、ホウッ！と感心したのは便所である。傾きかゝった厠に入り、穴の下が明るく、渓流の音に覗きこんでみると、穴の底は清らかな川がえんゝと流れている。原始的な水洗便所だが、これこそ文字通りの厠、川屋である」更に、宿の家族の川屋については、穴と流れがスレスレで、用を足したらその流れで浄めることができ、「これほど徹底した水洗便所は、おそらく世界中にもないだろう」と絶賛しています。

以上の本を利用者の方には紹介しましたが、このような「川屋」で、全国的に有名なのは、高野山にあったものです。

前述の『厠史話』にも「紀の國高野山では、僧房の厠の糞尿を水で隠所川に流して、浄めの不動瀧を落ちると、紀の川の本流を黄色に染めて流れて行った」と紹介されています。

どのような川屋だったのかというと、「川や井戸の水は竹筒などを利用して、まず台所や風呂へ給水され、その余り水や排水がトイレへと流され、屎尿とともに隠所川に流されるようになっていた」(『トイレ学大事典』日本トイレ協会/編　柏書房　2015)そうです。

江戸時代には、この方式が有名となり、「高野山」が厠の異名となったそうです。

水洗トイレの歴史は、思いのほか古いものでした。

更に現代、「一人になってじっくり考えられる」場所として「トイレ」は進化し、快適空間化には目を見張るものがあります。

欧陽修先生が現代に生きていたら、あまりの快適さに「一上」になってしまったかもしれませんね。

● レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館　参考・郷土室　電話 017-729-4311　FAX　017-762-1757
電子メール　sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

こどものひろば

皆さんは、当館こども向けホームページ**「こどものへや」**を見たことがありますか？

「こどものへや」トップページ画面

平成 28 年 12 月、青森県立図書館のホームページがリニューアルされました。

さらに、**「こどものへや」**ページは平成 29 年４月にプチリニューアル！トップ画面に（ Chisaki ）による手書きのイラストが配置され、もっとカラフルでにぎやかになりました。

また、今まで児童閲覧室だけでしか見られなかった**「青森県立図書館のひみつ」**が、ホームページでも見られるようになりました。

ここで**「青森県立図書館のひみつ」から問題**です。

「青森県立図書館には、子ども向けの本が６万７千冊ありますが、児童閲覧室には、子ども向けの本が何冊ならんでいるでしょうか？」

① １万冊　　② ２万７千冊　　③ ６万７千冊

（平成 29 年３月 31 日現在）
※答えは紙面、右下にあります。

このほか、どんなひみつがあるのか、ぜひアクセスしてみてください。

６月のテーマ展示「とけい」

「じどうしつのてんじ」ページでは、現在行っているテーマ展示の様子や、過去の展示の様子をご覧いただけます。ガラス面いっぱいに広がる手作りのディスプレイをぜひ見に来てください。

「じどうしつのおたのしみ」ページでは、毎月第２・４土曜日の午後２時から行っているイベント「おはなし会」の様子や「おしえて先生！知るしるする探検隊」のたのしい探検の様子をご覧いただくことができます。

これからも、ますますパワーアップしていく**「こどものへや」**を是非チェックしてくださいね！

※こどものへや（http://www.plib.pref.aomori.lg.jp/index.html?id=1）

答え：②２万７千冊

一般的に図書館資料といえば、図書資料が思い起こされますが、当館では図書資料のほか、本県に関する映像資料も収集しています。

今回はそれらの映像資料の中から、最近所蔵に加えられたものをご紹介します。

なお、今回ご紹介する資料は、いずれも館内閲覧のみ可能です。ご希望の方は、一般閲覧室カウンターまでお申し付けください。

◆『青森ねぶた　2016　日本の火まつり』（RAB 企画、2016）

毎年、青森ねぶたを特集しているシリーズです。当館では、2007 年以降の毎年分を所蔵しています。

内容は前後半の２部構成となっており、前半は青森ねぶたに関する起源や制作過程などを紹介し、後半は実際の祭りの様子を映しています。

「文化としてのねぶた」と「祭りとしてのねぶた」のいずれをも学び楽しむことができる内容です。

また、本編とは別に映像特典として子供ねぶたの特集もあります。小さな体で懸命にねぶたを引くその姿に思わず笑みがこぼれることでしょう。

私たちにとってあまりに身近な題材ですが、資料として閲覧することで新たな発見があるかもしれません。

ぜひご利用ください。

◆『アジア巨大遺跡第 4 集　縄文　奇跡の大集落』（NHK エンタープライズ、2016）

近年、縄文時代の研究を通して、次々と考古学の常識が覆されています。それまで、定住型の豊かな社会は農耕社会においてのみ成立するとされてきましたが、三内丸山遺跡の発掘調査結果によって一変しました。

三内丸山遺跡からは整備された道路、高い建築技術、計画的な植林、呪術的な意匠が施された土器、独特な形質の土偶などが発掘されました。この発見は、貧しく未発達と思われていた狩猟採集社会において、豊かな文明があったことを示します。

さらに、縄文時代は 1 万年以上も持続したことが分かっています。

これは縄文人たちが自然と共存し、持続可能なライフスタイルを形成していたことを示します。

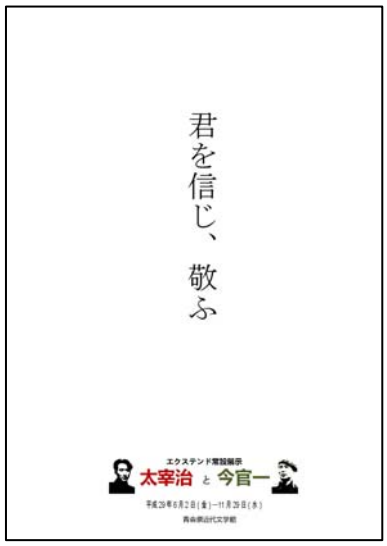
豊かな縄文文化に思いをはせながら、世界に衝撃を与えた三内丸山遺跡の意義を改めて確認してみてはいかがでしょうか。

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様に広くご利用いただいております。

ようこそ文学館へ！

近代文学館資料の紹介（第２７回）

今官一草稿
『青春の伝記　若き日の太宰治』
第二部 「乞食学生」の巻

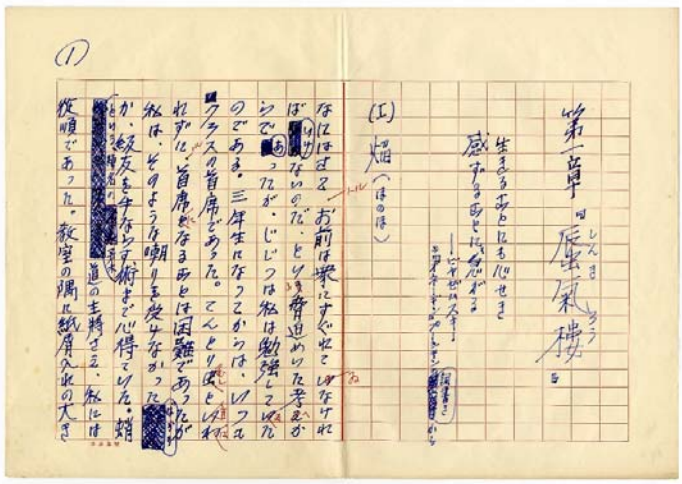


青森県近代文学館では年２回、常設展示室で紹介している作家のうちの複数名をとりあげ、展示エリアを大きく拡大する**「エクステンド常設展示」**を開催しています。**６月２日から**は、互いを畏友として認め合った**太宰治**と**今官一**をとりあげ、文学にかけた青春と友情の軌跡をたどる展示を行っています（**11 月 29 日まで**）。

昭和 11 年、太宰は、パビナール中毒の悪化で強制入院させられる数日前、官一宛の書簡に**「君を信じ、敬ふ」**と記しています（昭和 11 年 10 月 4 日 はがき）。昭和 23 年に太宰が死んだとき、その死にまつわるスキャンダラスな面が取り沙汰されがちだった中、官一は太宰の純粋な魂について力説し弁護しています。ちなみに、太宰の命日とされる 6 月 19 日は**「桜桃忌」**と呼ばれていますが、これは**今官一の提唱により名付けられた**ものでした。

それでは、今回展示の資料から、注目の１点をとりあげてご紹介しましょう。

今官一草稿
『青春の伝記　若き日の太宰治』
第二部 「乞食学生」の巻



文学館所蔵のこの草稿は全部で 16 枚、400 字詰原稿用紙にブルーのインクで書かれています。

昭和 43 年に鶴書房から今官一『青春の伝記　太宰治（上）』※が出版されており、この草稿は下巻のものと考えられます。しかし予定されていた下巻は出版されませんでした。草稿には「未定　出版社の事情で」というメモが付されています。

なお、この未完草稿の翻刻は、平成 24 年に出版された青森県近代文学館『資料集　第七輯　今官一・未発表作品集「月下点」他』（解説・舘田勝弘）に収められており、**県立図書館で閲覧できます**ので是非ご覧いただけたらと思います。

※昭和 51 年にすばる書房から『少年太宰治』と改題再刊

青森県立図書館　平成29年度６月～３月のイベント

●おはなし会（毎月第２土曜日）　絵本の読み聞かせやブックトークなど
日時：６月10日、７月８日、８月12日、９月９日、10月14日、11月11日、
12月９日、１月13日、２月10日、３月10日　14:00～14:30

●おしえて先生！知るしるするる探検隊（毎月第４土曜日※12月・３月をのぞく）
科学の実験やいろんなお仕事のはなし、スポーツの体験、本の展示など
日時：６月24日、７月22日、８月26日、９月23日、10月28日、
11月25日、１月27日、２月24日　14:00～14:30

いずれも会場は児童閲覧室です。

青森県近代文学館　平成29年度６月～３月の展示・イベント

●エクステンド常設展示「太宰治と今官一」
会期：６月２日(金)～11月29日(水)　9:00～17:00
会場：青森県近代文学館　常設展示室

●「葛西善蔵生誕130年特別展」
会期：７月８日(土)～９月18日(月・祝)　9:00～17:00
会場：青森県近代文学館　企画展示室
文学講座（7/23, 8/20）（※詳しい内容は２ページ）や日曜講座（9/3）も開催

●「没後80年・菊谷栄展」
会期：10月28日(土)～(平成30年)１月14日(日)　9:00～17:00
会場：青森県近代文学館　企画展示室

●エクステンド常設展示「川島雄三」
会期：12月７日(木)～(平成30年)５月下旬
会場：青森県近代文学館　常設展示室

●「本の装い展」
会期：(平成30年)２月24日(土)～５月20日(日)
会場：青森県近代文学館　企画展示室

●常設展示解説（毎月第２日曜日※12～３月をのぞく）
日時：６月11日、７月９日、８月13日、９月10日、10月８日、11月12日
13：30～14：00
会場：青森県近代文学館　常設展示室

●日曜午後の朗読会
日時：６月25日、８月27日、９月24日、10月22日、11月26日
13:30～14:00
会場：青森県近代文学館　企画展示室前ロビー